

平成24年度射水市行財政改革推進会議（第1回）議事要旨

- 1 開催日時 平成24年5月23日（水） 午前10時～午前11時45分
 - 2 開催場所 射水市役所小杉庁舎401会議室
 - 3 出席者
 - (1) 推進会議委員
荒木委員、荒谷委員、奥田委員、尾山委員、田中委員、中村委員、福島委員、
牧田委員
 - (2) 当局
市長、副市長、教育長
事務局：行政管理部長、行政管理部次長、財政課長、人事課長、人事課長補佐、
人事課員3名
 - 4 傍聴者等 なし
-

会議次第

- 1 開 会
- 2 委嘱状交付
- 3 挨拶
- 4 委員紹介
- 5 議 題
 - (1) 会長選出
 - (2) 副会長指名
 - (3) 射水市の財政状況について (資料1)
 - (4) 射水市の行財政改革の取組について (資料2)
 - (5) 第2次集中改革プラン実績報告について (資料3、4)
 - (6) 今後のスケジュールについて (資料5)
- 6 閉 会

主な意見等

射水市の財政状況について・射水市の行財政改革の取組について

- (委員) 資料 1のレーダーチャートの「類似団体」とは、どのような団体か。
- (事務局) 人口が5万から10万人規模、産業構造として第三次産業人口が65パーセント未満の市が該当し、全国で44市ある。
- (会長) 射水市の財政の状況としては、「やや窮屈にはなっているけれども、収支等でいえば黒字を維持している、ただし、平成33年度には19億円の収入減が見込まれるため、やはり行財政改革の必要性は高い」と言えると思う。

第2次集中改革プラン実績報告について

- (委員) 「行財政改革」とは、「行政改革」と「財政改革」の2つが合わさった言葉だと思っているが、「財政改革」の話が中心になっていると思う。何故「行財政改革」となっているのか。
- (副市長) 「行政改革」は「財政改革」につながるものであるため、基本的に不可分と思っている。ただし、行政改革の中には、「多少経費が掛かっても、市民サービスを向上するためには、その方がベターではないか」というような見方もあろうかと思う。
- (委員) 「交流人口を増やすことにより人が動き、その結果お金が動いて収入が増えるような取組」はプランにはないが、このような間接的な収入増は「財政改革」ではなく「行政改革」の部分に取り入れていくべきだと思うので、そのような質問をした。
- (副市長) 将来へ投資するようなことも、結果として行革や市民サービスの向上、市の財政力強化に結び付くことになるかと思うので、そのような意見があれば頂戴したい。
- (会長) 「いかなる効果を持っているのか」という評価を観点として含めるべきであるし、単に電卓をはじくだけではないという所が重要だと思う。
- (委員) 中止した取組について、基準はあるのか。
- (副市長) 明確な基準はない。なお、中止した取組は「射水市版事業仕分け」で提案されたものだが、仕分けの時に制度の仕組み等を十分説明しきれなかった部分があり、反省している。
- (委員) 例えば、PTAは廃品回収の報奨金を活動資金に充てているようなことを

忘れてはならないと思う。

(委員) 収支改善額の単年度目標は2億円と考えてよいのか。また、単年度ごとの評価はしないのか。

(事務局) 5年間トータルで10億円と考えており、単年度では考えていない。評価については、毎年度の実績報告を見て行いたいと思っている。

(委員) 改善が積み重なると、削減する項目が少なくなってくると思うので、そうなった時に、果たして今年度のように改善されていくのか、ということも大事ではないか。

(副市長) これから相当やらなければいけない。一番大きなものは人件費だと思うので、職員をできるだけ計画的に削減していけば、いわゆる恒常的な財政規模の縮小につながる。

(会長) 収支改善額では、資産の売却と補助金や人件費のカットを切り分けて考える必要がある。

今後のスケジュールについて

(会長) 外部評価について、実施方法や対象事業についての意見がある場合、変更は可能なのか。また、昨年度は2つのグループに分けて実施したが、その手法を基本とするのか。

(事務局) 可能である。委員の皆様から意見を伺いたい。また、手法については、今年度も同様に予定している。